



指定文化財展

平成2年10月9日(火)から12月2日(日)までの54日間、当館特別展示室において第2回特別展、「川越の指定文化財」を開催いたしました。

古い歴史をもつ川越は、関東地方でも数少ない城下町として歴史的・文化的な伝統に育まれた都市で、今日でも往時を偲ぶ貴重な文化遺産が市内に数多く残されています。その中で、特に歴史上、学術上、芸術上高い価値を有するもの161件がそれぞれ国・県・市の指定文化財としてその保存と活用が図られています。

今回の特別展では、こうした指定文化財のうち、有形のもので当館の常設展示で紹介しているものを除き、日頃一般に公開する機会の少ないもの48件を展観いたしました。

主な展示資料としては、喜多院の徳川将軍献上太刀のうち、「友成」の銘をもつ「糸巻太刀」

「川越の四季」屏風より

鈴木邦照

(重要文化財)、東照宮の「鷹絵額」(県指定)、三芳野神社の「三芳野天神縁起」(県指定)、また、かつて一度も堂外へ運び出され、公開されることがなかった小中居薬師堂の「木造薬師如来坐像」(市指定)、幕末の著名刀工藤枝太郎英義をはじめとする郷土刀工の作品群(市指定・いずれも個人蔵)等々で、どの展示資料も我々の祖先が永い歴史の中で創造し、伝承してきた文化の水準の高さを示すものばかりです。会期中当館を訪れた人々は37,402名を数え、多くの方の文化財に対する関心度の高さを改めて感じた次第です。

最後に本展示会の開催に当って、快くご協力下さいました文化財所有者・管理者の皆様、刀剣の展示にご指導下さいました初雁刀剣会の皆様、その他関係者各位に心より御礼申し上げます。

第1回 収蔵品展

天ヶ嶋 岳

会期 平成2年12月18日(火)から

平成3年1月20日(日)まで

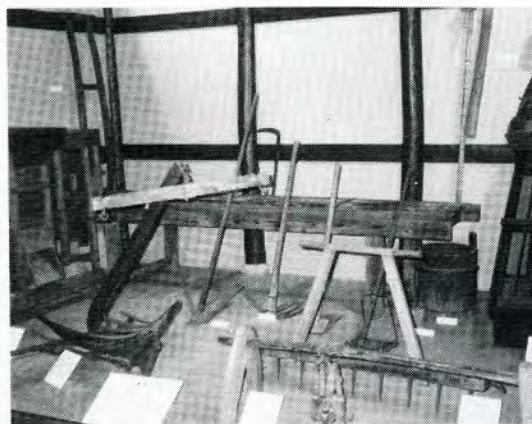
川越市教育委員会では、昭和55年度から文化財保護の理念と博物館建設に向けての準備の一環として、民具や古文書などの収集・整理を行ってきました。当時は社会教育課を中心に活動しましたが、昭和58年に博物館準備室が設置され、その仕事を引継ぎました。そして平成2年3月博物館開館後、博物館の重要な事業の一つとして資料の収集を行っています。

平成元年末現在、202人の方々から3,233点(文書資料を除く)の寄贈をいただきました。今回の第1回収蔵品展では、昭和55～58年に寄贈を受けた938点の資料のうち、次の5テーマを設定し、約70点の資料を展示しました。

- ①生活用具―「町家の居間」を念頭に造作物を設置し、展示する。
- ②農具―「農家の納屋」を念頭に造作物を設置し、展示する。
- ③消防用具―消防ポンプ車を中心に、竜吐水や衣装を展示する。

以下、④衣類、⑤美術・工芸その他

しかし、収蔵品のなかにはこのようなテーマに合致しないもの、複数あるため展示できなかったものも多数あります。



博物館の事業には資料の「収集」・「展示」のほかに「保存」という役割があります。今回の収蔵品展のように、寄贈資料を展示する機会もありますが、展示できなかった資料も含めて、将来の歴史資料として保存していかねばなりません。「博物館の資料＝骨董品」ではなく、私達が生活に使用する道具も私達の歴史を記す資料なのではないでしょうか。

今回の展示が、現在の私達の身の回りにあるものをもう一度みつめなおす機会となり、身近な文化財を大切にしていけるべきことをご理解いただければ幸いに思います。

郷土川越を描く美術展

川越市内の小・中学校の先生方の協力を得て、歴史・文化・自然を対象とした児童生徒の絵画作品を展示し、郷土川越に対しての認識を新たにすることを目的に、市民の日の記念事業のひとつとして企画いたしました。市内の小・中学校から約250点の作品の応募がありました。

郷土の自然、郷土の建物、郷土の年中行事、郷土の文化遺産、変貌しつつある市の姿の5つのテーマにわけ25点の入選作品を選定しました。どの作品も力作ぞろいで、多くの来館者の目を楽しませてくれました。

学校教育と博物館

水谷 薫

1、教育機関としての博物館

博物館は、歴史、芸術、民俗、産業、自然、科学等の研究・調査、資料の収集保存、ならびに公開し、広く一般の人々に利用されています。一般に博物館は研究機関としてのイメージが強いようですが、博物館法第3条に「博物館は、学校、図書館、研究所、公民館等の教育、学術又は文化に関する諸施設と協力し、その活動を援助すること。」とあります。このことから、調査・研究とともに教育機関としての役割を持っていることがわかります。さらに、「学校教育を援助しうるよう留意しなければならない。」と学校教育との連携をとることが明記されています。

2、学校の博物館活用のようす

学校教育においては、博物館が持つ膨大な資料のなかから、必要な資料を活用することは、先生方の教材研究の一助ともなります。その活用により児童・生徒にとっては、教材がより身近で、親しみやすく、わかりやすいものとなるはずですが、しかし、先進博物館におけるこれまでの活用状況をみると、十分であったとは言えないようです。これは、学校側が博物館についての認識や活用にあたっての教材研究が不足していたり、博物館側の学校教育への働き掛けが不十分であったりして、積極的な活用までいかなかったようです。

今回の学習指導要領の改訂にあたり、社会科の指導計画の作成と各学年にわたる内容の取り扱いの1「指導計画の作成にあたっては、博物館や郷土資料館の活用を図るとともに・・・」と明記されています。また他の教科領域に当たっては、改訂の大きなねらいのひとつである、「文化伝統の尊重と国際理解」をうけて、社会科を中心に関係のある教科領域でもわが国の文

化伝統の理解がもりこまれています。これらの内容を充実するためにも、博物館と学校教育の連携がますます必要となってきています。

3、川越市立博物館の取り組み

川越市立博物館では、学校教育との連携を深めるとともに、より積極的な博物館活用が行なわれるように研究を進めています。その研究機関として開館以前に博物館利用研究委員会を設置いたしました。市内の小・中学校から国語、社会、生活科、英語、音楽、図工・美術、道徳、特別活動担当の先生方25名で構成されています。博物館と言えば「社会科」での利用と考えがちです。社会科のみならず、各教科領域での博物館活用や地域の文化財の活用の方法を研究し学校や博物館に情報提供していく予定です。

また、博物館では市内の小（3・6年）・中学校（1・2年）の社会科学習での活用を援助するために、バスの配車を計画し実施いたしました。特に小学校3年の活用にあたっては社会科の学習内容にあわせて「むかしの学校、むかしのあそび」というテーマでミニ展示を開催しました。お父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃんが勉強したときの学校の様子やあそびの道具等を展示し、歴史への興味関心を育てるための展示をいたしました。

このほか、寺尾小、牛子小、霞北小、霞南小、高階西小、名細小、砂中では各学校の協力をえて、転用可能教室を使ってそれぞれのテーマで収蔵展示をしています。

このように、これからも博物館が学校教育を援助する方法や内容について研究を行ない、学校教育との連携を深めていく予定です。

昨年度の主な催し



10月13日～3月29日

こども博物館教室

こどもたちが川越の歴史や文化についてやさしく、楽しく学ぶ講座です。体験や調査活動を通して、歴史や文化に対する理解を深めるとともに、文化財を大切にしようとする態度を育成することをねらっています。8月に開講し、3月まで毎月第3土曜日に行いました。歴史を学習するとともに近年、経験することが少なくなった伝統的な年中行事や遊びなどの、体験を通して楽しく学びました。

博物館歴史講座

博物館歴史講座は川越地方の歴史や文化について、色々な分野の専門の先生方に講演をいただく講座です。平成2年度は、「川越の石仏」大護八郎氏、「松平信綱」根岸茂夫氏、「奥貫友山」重田正夫氏、「万葉に見る武蔵」山野清二郎氏の各先生からそれぞれのテーマで講演をいただきました。合計238名の受講を得て大変好評でした。これからも川越地方に関わりのある内容の講演会を予定しています。



11月17日～12月8日

野外博物館教室

さわやかな秋の風をきって、川越の歴史を歩きながら知ろうと、野外博物館教室を企画しました。「川越城をあるく」10月21日(日)、「城下をあるく」10月28日(日)、「川越街道をあるく」11月3日(土)「仙波台地喜多院をあるく」11月18日(日)「新河岸川をあるく」11月25日(日)の5回でした。「川越街道をあるく」では往時の様子を学芸員が説明しながら博物館から大井町立郷土資料館までの8kmあまりを歩きました。今年度は別の計画で予定しています。日頃運動不足の方もご参加ください。



11月21日～12月18日

土器焼き講座

体験学習「縄文土器を作ろう!!」は昨年の夏、行なわれました。7月21・22日の粘土練り、8月11日の形づくり、22日の焼き上げ。夏の暑いさなか6歳から65歳の29名の参加者がありました。この体験学習では土器作りを通じて、原始の川越に生きた私たちの先祖とふれあうのが目的でしたが、これまでお互い知らなかった参加者同志が知り合ったのも大きな収穫でした。今年度も体験学習「縄文土器を作ろう!!」を行います。みんなで縄文人に挑戦しましょう。



機織り講座

2月24日から3月16日までの毎週土曜日、機織り基本講座を企画しました。これは織物の基本的な部分を知っていただくことを目的に、綿を糸にする（糸紡ぎ）、糸を布にする（裂織、川越唐棧）、布を染める（ハンカチをインド藍、たまねぎの皮で染める）の体験講座です。川越唐棧愛好会手織りの会の方々の協力を得て、26人が熱心に機や糸車に向かいました。今年度も同じ内容の講座を企画する予定です。



'90さいたま景観賞をいただきました

県内の都市美と文化の創造上の優れた建物などにあたえられるさいたま景観賞。昨年は232点のなかから6点が表彰され、川越市立博物館もそのうちの1つに選ばれました。

受賞の理由は『城下町川越の文化遺産を保存公開するのにふさわしい蔵造り風の博物館。さわやかな景観を作り出している。』というものです。博物館においての際は、ちょっと道端から眺めて見てください。



● ● ● 開 催 中 ● ● ●

第4回企画展

「美の先達者たち～鏡にみる日本の美と心～」

我々の祖先たちは、鏡を権威の象徴として珍重し、信仰の対象として崇め、たくさんの鏡を作り出してきました。こうした人々の鏡に対する思いは、鏡背の文様や鏡を母胎にした鏡像や懸仏などの造形にもうかがえます。この企画展では羽黒山御手洗池出土の和鏡をはじめ、金銅春日鹿御正体、熊野十二社権現懸仏などの資料を時代の流れに沿って展示しています。古鏡の鏡面が映す当時の人々の姿をじっくりとご覧下さい。



平成3年6月1日(土)～6月30日(日)

資料寄贈者名簿

敬称略 順不同

61年	小松 亮一	泉名 寛治	関 巳喜治	肥田 繁雄	一万田国彦
	小川 直志	高階中学校	早川 栄一	神山 たつ	中野 進
	浜野 千三	武内喜久江	小峰安太郎	島田富五郎	岡田 忠久
	守谷 弘	須賀 政吉	田辺 実	滝沢 貞蔵	加藤 直三
	林 栄一	富田 知吉	斉藤 隆才	落合 正夫	
	榎木 庫雄	葛貫 九重	矢部 道雄	小川 斧治郎	
	小島 時男	荒井 修一	大河内啓一	飯野 正一	

資料を寄贈いただき厚く御礼申し上げます、62年以降は次号以降でご紹介します。
ご寄贈いただいた資料は、今後「収藏品展」等でご紹介させていただきます。

— 利用 状 況 —

月	一 般			団 体			共 通			そ の 他			合 計 入館者合計
	大人	学生・生徒	児童	大人	学生・生徒	児童	大人	学生・生徒	児童	他館購入	招待	免除	
10月	4,183	305	450	656	299	50	2,308	140	85	2,649	154	6,146	17,425
11月	4,508	290	630	833	82	2	1,892	125	170	3,536	127	8,824	21,019
12月	1,377	75	186	82	—	—	484	25	12	915	212	3,502	6,870
1月	2,860	151	401	298	47	—	1,022	157	141	1,607	247	2,299	9,230
2月	2,740	331	588	210	—	—	1,142	73	103	1,638	107	5,239	12,171
3月	3,641	3,335	716	465	46	72	1,247	109	174	2,050	77	3,397	12,329

発行日 平成3年6月1日

発行 川越市立博物館
〒350 川越市郭町2丁目30番1号
TEL 0492-22-5399